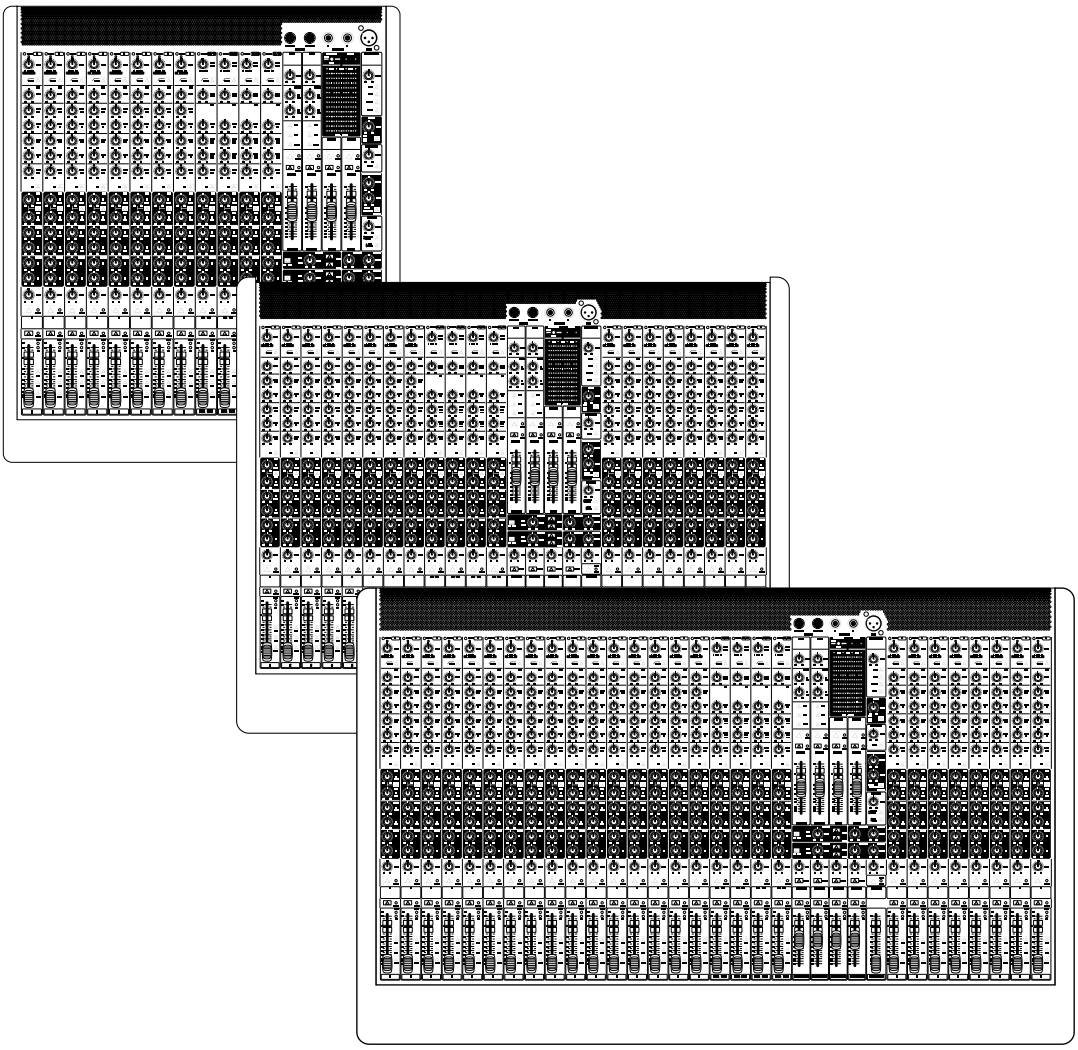
XENYX

XL1600/XL2400/XL3200

取扱説明書

A50-77230-19001



ja

www.behringer.com

BEHRINGER

JUST LISTEN.

安全にお使いいただくために

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が通じています。手を触れると感電の恐れがあります。

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用の前に良くお読みください。

注意

☞ 感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。製品内部には手を触れないでください。故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。

☞ 火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるとろには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

☞ これらの指示は、資格のあるサービス技術者に向けたものです。感電の危険を防ぐため、有資格者以外は、装置の操作方法に記載された内容以外の整備は、行わないようにしてください。修理は、資格のあるサービス技術者のみが行うようにして下さい。

ja

1) 取扱説明書を通してご覧ください。

2) 取扱説明書を大切に保管してください。

3) 警告に従ってください。

4) 指示に従ってください。

5) 本機を水の近くで使用しないでください。

6) お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

7) 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。

8) 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9) ニ極式プラグおよびアースタイプ（三芯)プラグの安全ピンは取り外さないでください。ニ極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広くなっています。アースタイプの三芯プラグにはニ本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10) 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11) 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

12) ートト、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

13) 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

14) 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。 電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。

15) すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。

16) 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに手に届く場所に設置して下さい。

17) 極度に高いノイズレベルに晒されると、恒久的な聴覚の障害を引き起こすことがあります。

テクニカルデータや製品の外観は予告なしに変更される場合があります。 ここに記載された情報は、印刷時のものです。 BEHRINGER 社は、ここに含まれたすべて、もしくは一部の記述、画像および声明を基にお客様が起こした行動によって生じたいかなる損害・不利益等に関しても一切の責任を負いません。色およびスペックが製品と微妙に異なる場合があります。 製品の販売は、当社の正規代理店のみが行っています。 製品のディストリビューター（配給元）およびディーラー（販売業者）は、 BEHRINGER の特約代理店ではなく、これらは明示・暗示を問わずあらゆる行動および表現によって BEHRINGER を拘束する権限を一切有しません。この説明書は、著作権保護されています。本取扱説明書に記載された情報内容は、BEHRINGER International GmbH からの書面による事前の許諾がない限り、いかなる利用者もこれを複製、使用、変更、送信、頒布、入れ替え、工作することは禁じられています。

複製権所有 / ALL RIGHTS RESERVED. © 2009 BEHRINGER International GmbH, Hanns-Martin-Schleyer-Str. 36-38, 47877 Willich-Muenchheide II, Germany.
Tel. +49 2154 9206 0, Fax +49 2154 9206 4903

目次

1. はじめに 3
- 1.1 ご使用の前に 3
  - 1.1.1 出荷 3
  - 1.1.2 スタートアップ 3
- 1.2 本取扱説明書について 3

2. クイックスタート 4
- 2.1 接続例（入力端子類とインサート） 4
- 2.2 接続例（出力端子類） 5

3. 設置方法 6
- 3.1 ラックへの組み込み 6
- 3.2 オーディオ接続 6

4. 接続端子類 7
- 4.1 リアパネル 7
- 4.2 モノラル入力端子類 7
- 4.3 ステレオ入力端子類 8
- 4.4 メインセクションの出力端子類 8
- 4.5 サブグループ接続端子類 8
- 4.6 CD ／テープ接続端子類 8
- 4.7 FX/Mon/Aux センド 8
- 4.8 Aux リターン 8
- 4.9 ライトおよびヘッドフォン接続端子類 8

5. コントロールパネルと接続端子類 9
- 5.1 モノラルチャンネル 9
  - 5.1.1 FX, MON, AUX センドパス 9
  - 5.1.2 チャンネルフェーダー、パンコントローラー、ミュートスイッチなど 10
- 5.2 ステレオチャンネル 10
  - 5.2.1 イコライザーステレオチャンネル 10
  - 5.2.2 ステレオチャンネルの FX/MON/AUX センドパス 10
  - 5.2.3 チャンネルフェーダー、パンコントローラー、ミュートスイッチなど 10
- 5.3 メインセクション 11
  - 5.3.1 MAIN A セクション 11
- 5.4 レベルメーター 11
- 5.5 サブグループ 11
- 5.6 マスターセクションのその他の機能 12
  - 5.6.1 トークバック機能 12
  - 5.6.2 ソロ 12
  - 5.6.3 CD/TAPE 12
  - 5.6.4 PHONES/SPEAKER セクション 12
- 5.7 FX マスターセクション 12
- 5.8 モニターセンドセクション 13
- 5.9 AUX マスターセクション 13

6. 回路の変更 13
- 6.1 Mon/Aux Sends > Post-EQ 13
- 6.2 ダイレクトアウト > プリフェーダー 13

7. テクニカル・データ 14

1. はじめに

XENYX のお買い上げ、まことにありがとうございます。これは新たなスタンダードを築く最先端のパワーミキサーです。あらゆるアプリケーションに対応できる革新的な装置の開発が当社の当初からの目標でした。その結果、幾多の性能を備え、幅広い接続環境とオプションを提供するこのパワーミキサーが誕生したのです。

BEHRINGER は、プロ用のレコーディングスタジオ技術にそのルーツを求める企業です。当社はこれまで長年にわたり、ライブおよびスタジオで使用できる製品の開発に携わってきました。それはマイクや 19 インチ製品（コンプレッサー、エンハンサー、ノイズゲート、チューブプロセッサー、ヘッドフォンアンプ、デジタルエフェクト機器、DI ボックス等）、モニターおよび PA スピーカー、そしてプロ仕様のライブ／スタジオ用レコーディングミキサーなど多岐にわたります。当社のこれまで培ってきた技術的なノウハウのすべてが、この XENYX ミキサーに詰め込まれているのです。

1.1 ご使用の前に

1.1.1 出荷

製品は、安全な輸送のために工場出荷時に十分な注意を払って梱包しておりますが、 万が一包装ダンボールが破損している場合は、機器の外面に破損がないことをご確認ください。

☞ **万が一機器に破損がある場合は、保証請求権が無効となることを防ぐために、製品を当社へ直接返送せずに、必ず販売代理店および運送会社までご連絡ください。**

☞ **パワーミキサーの使用や運搬を最適に保護するために、ハードケースの使用をお勧めします。**

☞ **機器を保管したり輸送する場合は、破損を防ぐために、必ずオリジナルの梱包箱を使います。**

☞ **機器や包装箱は子供の手の届かない場所に保管してください。**

☞ **梱包材は環境保護に適した方法で廃棄します。**

1.1.2 スタートアップ

十分な換気を確保し、過熱を防ぐために機器は暖房などのそばに設置しないでください。

☞ **ヒューズが焦げた場合は、正しい値のヒューズと交換します。ヒューズの値については「テクニカルデータ」の章をご覧ください。**

電源への接続には付属の常温機器コネクター付き回路ケーブルを使用します。このケーブルは必要な安全基準を満たしています。

☞ **すべての機器が正しく接地されていることを確認します。安全のために、機器や電源回路ケーブルからアース線を取り外したり使用不能にすることは絶対にしないでください。必ず正常な接地線をご使用のうえ、装置を電源網に接続してください。**

☞ **過大な音量は、聴覚障害およびヘッドフォン故障の原因となる恐れがあります。スイッチオン時にミキサーおよびその他の機器からポンという大きなノイズが発生しないよう、パワーアンプ類またはアクティブスピーカーは必ず最後に電源を投入し、使用後は一番最初に電源を切ってください。常に適切な音量での使用を心がけてください。**

接続の際の注意（重要）

☞ **電波の強い放送局や高周波音源の範囲内では、音質が減退する可能性があります。 その場合は、送信機と機器の距離を離し、すべての接続にシールドケーブルを使用してください。**

1.2 本取扱説明書について

本取扱説明書は、ユーザーの皆さんが操作部全体の機能について理解できるように、そしてそれと同時に、その詳しい使用方法もわかるように構成されています。また、各機能の関連性がすぐにわかるように、本書での説明は機能ごとにまとめられています。

2. クイックスタート

2.1 接続例（入力端子類とインサート）

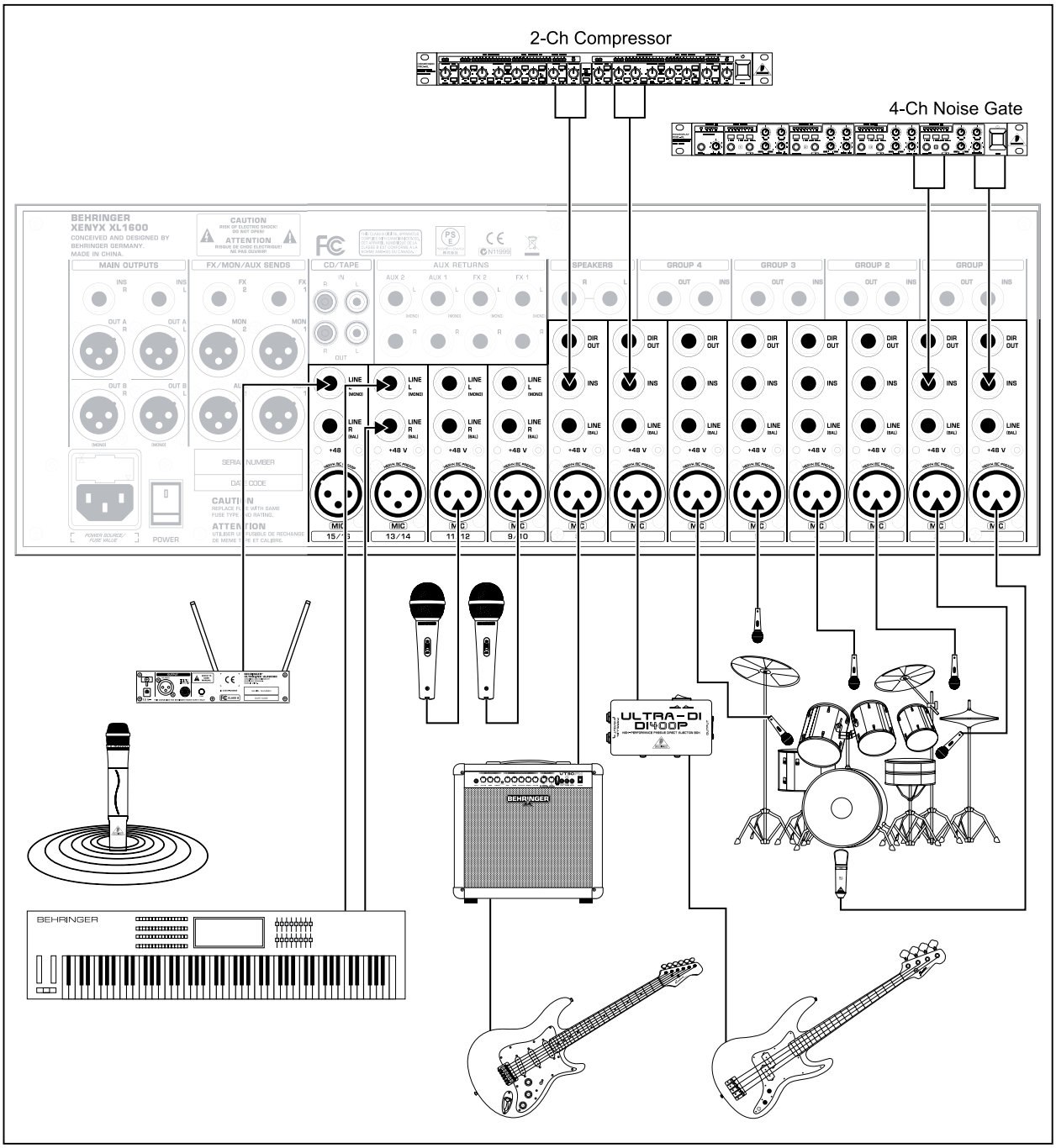


図 2.1: チャンネルの接続（入力端子類とインサート）

2.2 接続例(出力端子類)

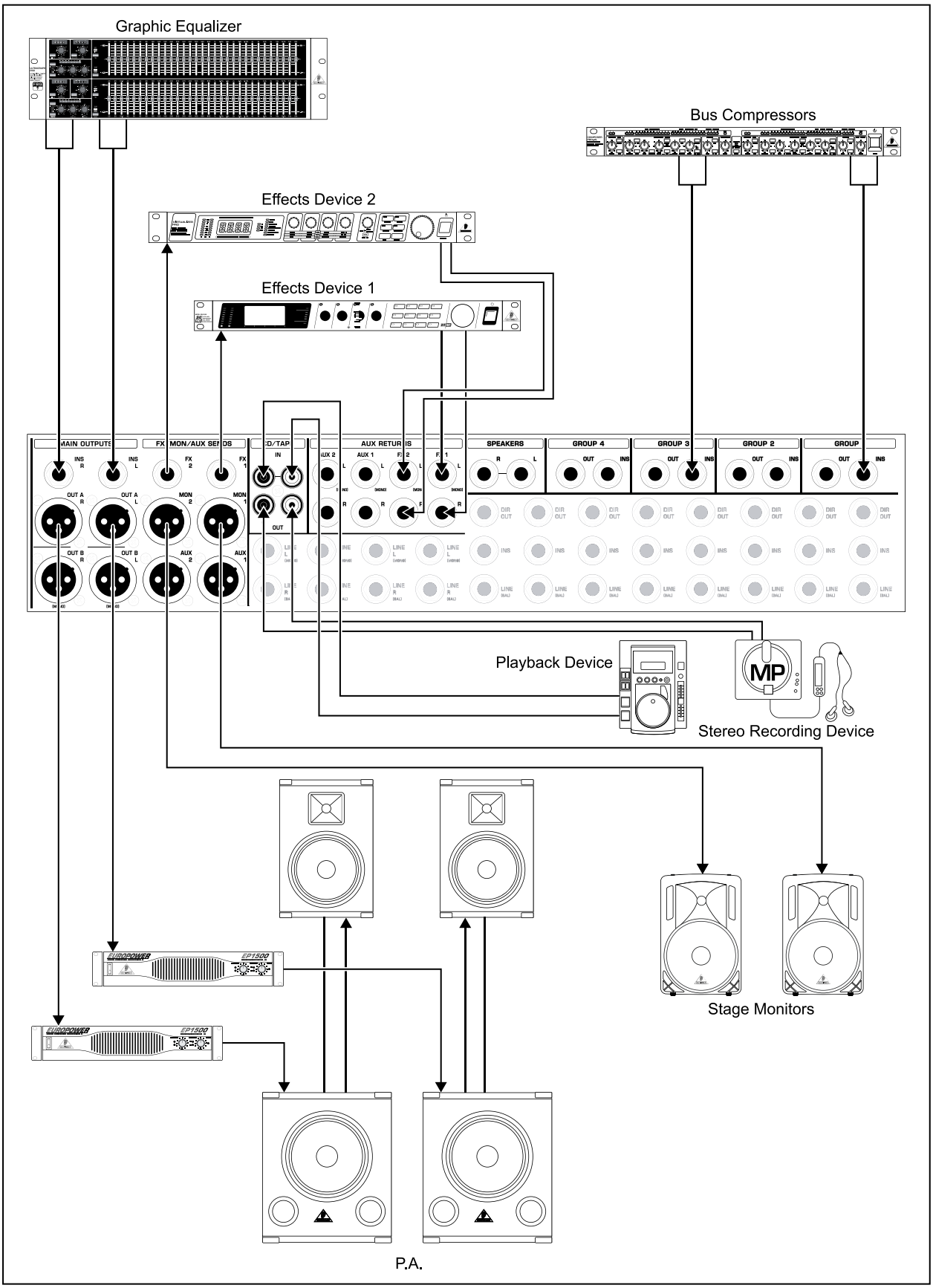


図 2.2: チャンネルの接続(出力端子類)

3. 設置方法

3.1 ラックへの組み込み

ミキサーには、ミキサー側面への取付け用に 19 インチ・マウントアングルが付属されています。

ミキサーにマウントアングルを固定する際には、ミキサー両側面のネジを取り外してください。その後、同じネジを使用し、両方のアングルを取り付けてください。マウントアングルは左右それぞれに合ったものをお取り付けください。ミキサーにアングルを取り付ければ、市販の 19 インチラック内に組み込むことが可能となります。機器の過熱を防ぐため充分な換気に留意してください。

☞ **19 インチラックアングルの取り付けには、ミキサー両側面に装備されているネジのみをご使用ください。**

3.2 オーディオ接続

BEHRINGER XENYX ミキサーの入／出力端子は、モノおよびステレオチャンネルのバランス型ライン入力端子、およびメイン出力端子類を除いて、すべてアンバランス型のモノラルフォンジャック仕様となっています。しかしもちろんバランス型およびアンバランス型のフォンジャックで装置をお使いいただくことができます。 CD/TAPE 入／出力は、ステレオピンジャック仕様となっています。

☞ **XENYX の設置は、必ず専門家が行うようにしてください。設置および操作の際には、本装置を完全な状態で作動させ、静電気の放電などによる悪影響を防ぐため、作業者の設置を十分に確保してください。**

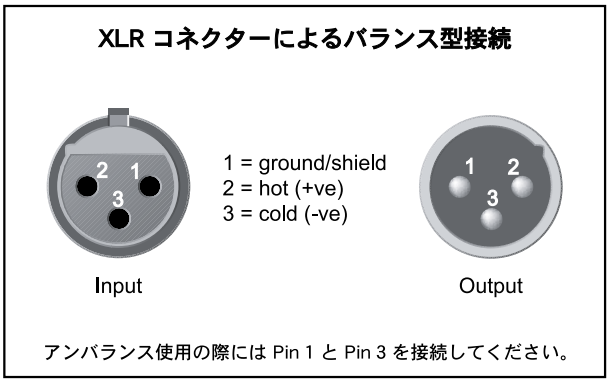


図 3.1: XLR コネクター

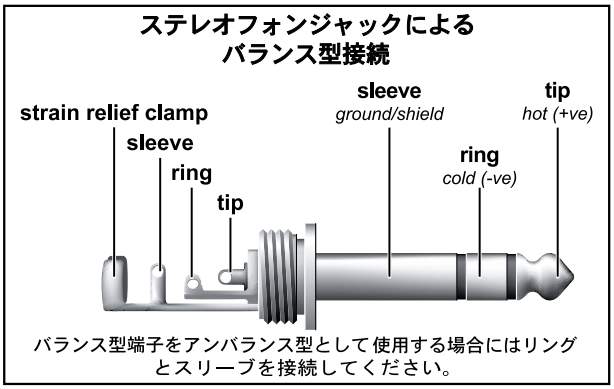


図 3.2: 6.3 mm TRS コネクター

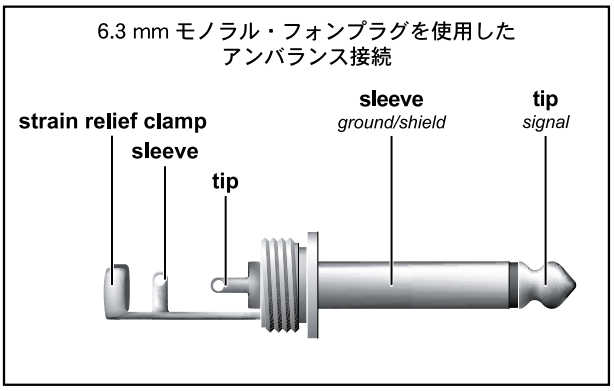


図 3.3: 6.3 mm TS コネクター

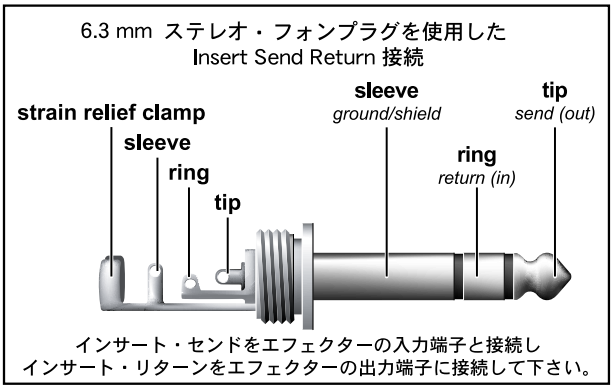


図 3.4: インサートセンド／リターン
6.3mm TRS ステレオフォンプラグ

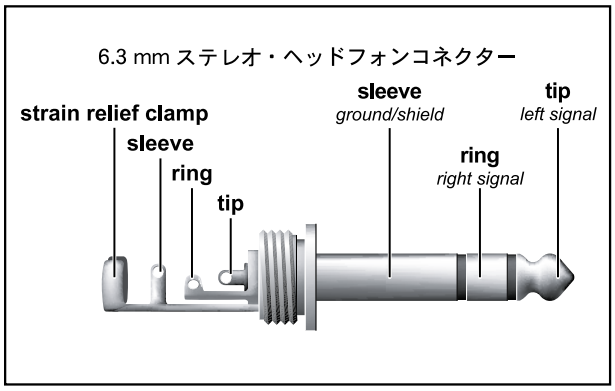


図 3.5: 6.3mm ステレオ・ヘッドフォンコネクター

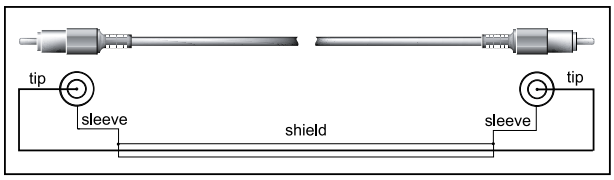


図 3.6: RCA ピンプラグ

4. 接続端子類

装置背面部に、ほぼすべての入力／出力端子類が備えられています。

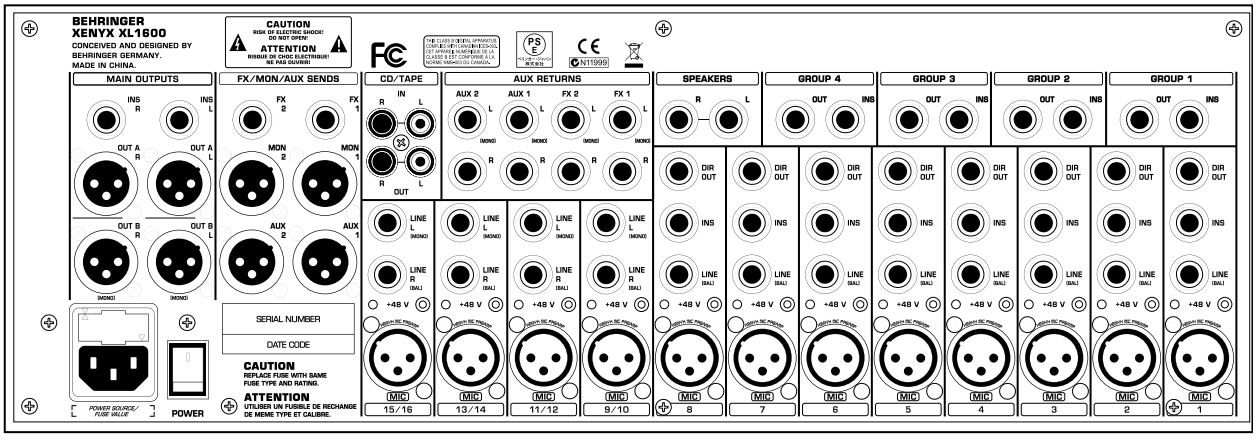
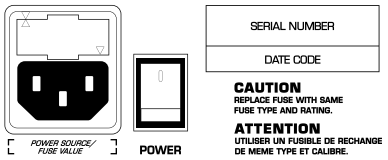


図 4.1: 背面部の接続端子類

4.1 リアパネル

IEC

電源接続には標準型 IEC ケーブルを使用してください。適切な電源ケーブルは製品に付属されています。



ヒューズホルダー

ヒューズホルダー／電圧設定：装置を電源に接続する前に、電圧の表示が供給電圧と同じであることを確認してください。ヒューズ交換の際には、必ず同じタイプのものを使用してください。詳しい値は、第 章「テクニカルデータ」をご参照ください。

POWER

この *POWER* スイッチで装置に電源を投入します。このスイッチは、装置を主電源につなげるまで「オフ」の状態になっていることをご確認ください。

本体を主電源から切る時は、メインコードのプラグを引き抜いてください。製品を設置する際は、このコンセントを容易に外せるような場所に置くようにしてください。ラックマウントの際は、プラグもしくはラック周辺にある電源タップのスイッチを切って主電源を落とせるようにしてください。

☞ **ご注意ください：この POWER スイッチを切っただけでは装置の電源が完全に切れたことにはなりません。本体を主電源から切り離す際は、メインコードのプラグを引き抜いてください。装置を設置する際は、この電源ケーブルが損傷のない完全な状態であることを必ずご確認ください。長期間装置を使用しない場合は、主電源からコンセントを抜いて下さい。**

シリアルナンバー

ミキサーのシリアルナンバーです。

4.2 モノラル入力端子類

MIC

マイク、 DI ボックス、マルチコアなどを接続するバランス型 XLR 入力端子です（マルチコアとは、ステージ上にあるすべてのチャンネルを一つのいわゆるステージボックスへとまとめ、そこからミキサーへと送り込む多芯ケーブルのことです）。

マイクからの電源投入ノイズが出ないよう、ファンタム電源を入れる前に、必ずマイクを接続して、ミキサーのすべての出力部をミュートしてください。電源投入後は、電圧が安定するまで一分ほど待ち、それから徐々にマイクの入力レベルを上げていくように心がけてください。

☞ **ご注意！ファントム電源を使用する際には、MIC 入力ジャックへのアンバランス型 XLR 接続(PIN 1 および PIN 3 の接続) を絶対におこなわないでください。**

+48 V

ファンタム電源はコンデンサーマイク用です。ファンタム電源のスイッチが入ると、スイッチ横のコントロールランプが点灯します。その他のコントロールランプ類は、ミキサー操作部の各チャンネルにある Trim セクションにあります。通常はダイナミックマイク（バランス型）のご使用も可能です。不明点に関してはマイクの各製造元にお問い合わせください。

LINE

キーボードや CD プレイヤーなどのラインレベル信号が接続できる 6.3 mm フォンジャックです。入力部はバランス型ステレオフォンジャックとなっていますが、アンバランス型のモノラルフォンジャックでもお使いいただけます。

INSERT

INS(ert) 接続は 6.3 mm ステレオフォンジャックとなっており、外部エフェクトプロセッサのループ接続用です。ここにコンプレッサー、ノイズゲート、イコライザーなどを接続すれば各チャンネルの信号をそれぞれ処理することができます。このエフェクトループ部はフェーダー、EQ、Aux Send よりも前を通っています。ループ接続にはインサートケーブルをお使いください。

DIRECT OUT

この 6.3 mm モノラルフォンジャックはダイレクトアウトになっており、信号をチャンネルフェーダーの後ろから、例えばマルチトラックレコーダーに送りこむ際などに使用されます。装置内部の基盤にモディファイを施すことによって、信号をプリフェーダーに変えることも可能です（モディファイに関しては第 6 章をご覧ください）。

ja

4.3 ステレオ入力端子類

LINE L (MONO), LINE R

ステレオチャンネルには、左右両チャンネル用の 2 つの LINE 入力端子が 6.3mm フォンジャックで備えられています。入力端子はバランス型ステレオフォンジャック仕様ですが、アンバランス型のモノラルフォンジャックでもお使いいただけます。「L」と記された端子のみを使用すれば、チャンネルをモノラルで使用することもできます。モノラル信号を接続する際は、「L」の表示のある左チャンネル部分のみを使用してください。

MIC

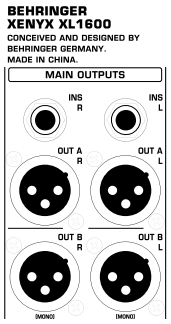
ステレオ入力端子にもマイク、DI ボックスおよびマルチコア接続用の XLR 入力が備えられています。

+48 V

コンデンサーマイク用のファンタム電源です。電源を入れるとスイッチ横のコントロールランプが点灯します。

4.4 メインセクションの出力端子類

OUT A



OUT A 出力端子はメインミックス信号を送るバランス型 XLR コネクターとなっており、規定操作レベルは +4 dBu です。

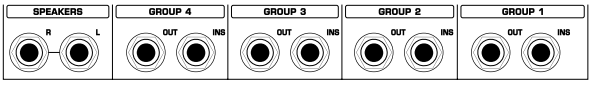
OUT B

OUT B 出力端子は MAIN B 信号用となっており、音量調節も独立して行えます。

INSERT

チャンネルインサート同様、INS(ert) コネクターにもダイナミックプロセッサや EQ などを接続し、OUT A からのミックス信号をもう一度処理することができます。

4.5 サブグループ接続端子類



GROUP OUT 1 – 4

これら 4 つの SUBGROUP OUT では各サブグループ信号が取り出されます。マルチトラッキングの際は、マルチトラックレコーダーの入力端子とこの出力端子を接続してください。

INSERT

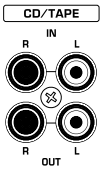
各サブグループには INS と記されたインサート端子が備えられています。ここにノイズゲート、コンプレッサー、または EQ を接続して、サブグループ信号をまとめて処理することができます。例えば、複数のバックグラウンドシンガーの音声信号を一つのサブグループバスにルートし、これにコンプレッサーをかければ、よりコーラスらしい効果を得ることができます。インサートポイントはグループフェーダーより前の段階で結線されているので、ダイナミックプロセッサー(ノイズゲート、コンプレッサーなど)をグループフェーダーの音量レベルに影響されることなく使用することができます。

SPEAKERS

SPEAKERS 出力からはヘッドフォン出力と同じ信号が出力されます。モニタースピーカーはここに接続してください。これは特にミキサーが、演奏者のいるホールとは別の場所にある場合に便利です。ここにステージミキサーを接続してステージ上のモニターサウンドをチェックすることも可能です。その場合は、ここに接続するモニターとステージ上で使用しているモニターが同一種類のものである必要があります。

4.6 CD ／テープ接続端子類

IN



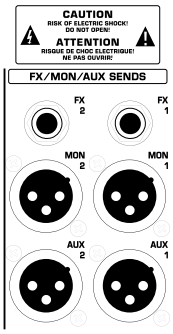
これは CD プレーヤーやテープデッキなどラインレベル信号接続用の *CD/TAPE INPUT RCA* ピンプラグ端子です。信号音量は TO MAIN コントローラーで調節してください。

OUT

CD/TAPE 出力にはステレオメインミックス信号が送り込まれます。ここに例えばテープデッキや DAT レコーダーを接続して、ミックスの録音を行うことができます。信号はプリフェーダーで取り込まれるため、フェーダーの動きには影響されません。

4.7 FX/Mon/Aux センド

FX 1 und 2



FX 出力 1 および 2 にはエフェクトバス 1 および 2 の信号が送り込まれます。これらの信号を外部エフェクトプロセッサに送り込み、AUX RETURN 入力もしくは独立入力チャンネルを介して再びルートしなおすこともできます。

MON 1 und 2

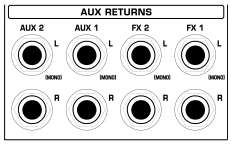
モニター出力 1 および 2 にはモニターバスの信号が送り込まれます。これらの信号はステージスピーカーへ送り込むことができます。ミキサーからステージへのケーブルが長くなり、干渉が発生する恐れがあるため、この出力端子にはバランス型の XLR コネクターが採用されています。さらに、マルチコアにも適応したコネクターとなっています。

AUX 1 und 2

AUX 出力 1 および 2 には AUX バス 1 および 2 の信号が送り込まれます。これらのバスはそれぞれプリ／ポストフェーダーの切り替えが可能となっているため、エフェクトもしくはモニター用に使用することもできます。

4.8 Aux リターン

AUX RETURN



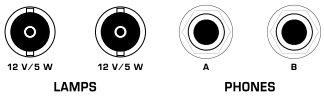
ステレオ AUX 入力 1 および 2 を介してプレーヤー、エフェクトプロセッサ、サブミキサーといった機器をミキサーへと送り込むことができます。これらはサム信号へとミックスされます。

FX RETURN

ステレオ FX RETURN 端子 1 および 2 は、外部エフェクトプロセッサの出力にリンクされています。ルーティングの仕方によっては、信号はサブグループまたはメインミックスバスへと送り込まれます。

4.9 ライトおよびヘッドフォン接続端子類

LAMPS



LAMPS プラグには BNC コネクタ付のグースネックランプを接続します。電圧は 12 V で、最大消費電力は 5 ワットです。

PHONES

PHONES 出力(6.3 mm ステレオフォンジャック)にはヘッドフォンを接続してください。

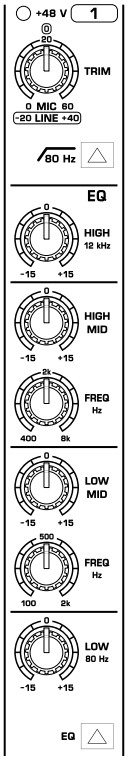
5. コントロールパネルと接続端子類

この章では、本ミキサーの各コントローラーに関する説明を行っていきます。すべてのコントローラーおよび接続端子に関する詳細が述べられています。

5.1 モノラルチャンネル

+48 V

ファンタム電源を入れるとこのコントロール LED が点灯します。スイッチは装置の背面部にあります。



Trim

TRIM コントローラーは入力ゲインの調節に使用します。

☞ **音声信号の接続もしくは切断を行う際は、このコントローラーを完全に半時計回りに廻しきってください (レベル 0 状態)。**

ダイアルには 2 つの異なる値があります。最初の値はマイク入力となる 0 から +60 までで、これは入力信号に適応した増幅値となります。二つ目の値は -20 から +40 dB で、これはライン入力の増幅値となります。センターポジションでは、ライン信号はブーストもカットもされません。

80 Hz

80 Hz スイッチを押すとハイパスフィルターが起動し、低周波ノイズ（-3 dB @ 80 Hz, 18 dB／オクターブ）がカットされます。

イコライザー

すべてのもの入力チャンネルには 2 つのセミパラメトリックミッドを備えた 4 バンド EQ が備えられています。最大 15 dB までのカットおよびブーストが行えます。センターポジション (0 dB) では、EQ はフラットとなります。

HIGH

高周波帯域は 12 kHz 以上をシェルビングフィルターで調節可能です。

HIGH MID

セミパラメトリックピークフィルターで 400 Hz から 8 kHz 間の中音域の調節ができます。HIGH MID コントローラーでブーストまたはカットしたい周波数を選択する際は FREQ コントローラーを使用します。

LOW MID

二つ目のセミパラメトリックピークフィルターも中音域の調節用です。HIGH MID コントローラーでブーストまたはカットしたい周波数を選択する際は FREQ コントローラーを使用します。

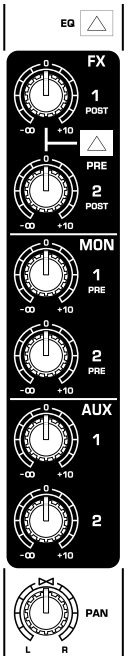
LOW

低周波帯域は 80 Hz 以下をシェルビングフィルターで調節可能です。

EQ

EQ プッシュボタンを押すとイコライザーが起動します。スイッチのオンオフを繰り返すと、EQ 処理前後の音色の違いを確認することができます。

5.1.1 FX, MON, AUX センドパス



センドパス **FX, MON** および **AUX** で一つ、もしくは複数チャンネルからの信号を取り出し、他の出力へルートすることができます。こうすることで、エフェクト **(FX)** およびステージで演奏するミュージシャン **(MON)** へ独立したミックスを生成することができます。**FX/MON/AUX** センド出力を使用すると、ミックスはステージスピーカーおよびエフェクト機器へと送られます。

FX 1 と FX 2

FX バスは外部エフェクト機器へのセンドパスとして使用することができます。信号は通常チャンネルフェーダーの後に取り込まれるため、チャンネルフェーダーの位置に影響されます。

FX コントローラーはエフェクト機器へ送られるチャンネル信号の音量を調節します。

PRE

両エフェクトパスのルーティングを「ポストフェーダー」から「プリフェーダー」に変えるには PRE スイッチを押してください。こうすることでエフェクト信号の音量レベルはチャンネルフェーダーの影響を受けなくなります。

チャンネルの FX コントローラーと該当するマスター FX SEND コントローラーは、両方ともフルに廻す必要があります。FX センド出力をエフェクト機器の入力端子に接続してください。エフェクト信号が、マスターセクションの FX RETURN からルートバックされます。

Monitor 1 と 2

モニターバスはステージモニターへのセンドパスとして使用できます。モニターセンドは、プリフェーダーとして結線されています。つまり、モニターミックスの音量レベルは、チャンネルフェーダーに影響を受けません。

MON コントローラーはモニターバス上のチャンネル信号の音量調節用です。

AUX

AUX バスは各種アプリケーション用のセンドパスとして自由にお使いいただけます。

AUX コントローラーは AUX バス上のチャンネル信号の音量レベル調節用です。

AUX 信号のサム信号は、メインセクションにある AUX SEND コントローラーで決定することができます。信号は、該当する AUX SEND 出力からルートすることができます。両 AUX センドパスともに最大 +15 dB まで増幅可能で、メインセクションにてプリ／ポストフェーダーの切り替えが行えます。

プリフェーダーまたはポストフェーダー

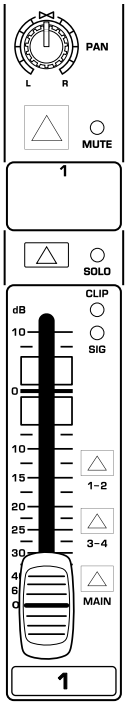
外部エフェクト信号を使用するほとんどのアプリケーションでは、チャンネル内のエフェクトレベルがチャンネルフェーダーに影響されるよう AUX センドパスはポストフェーダーに切り替わっているはずです。そうでない場合は、フェーダーを下げきってもエフェクト信号が聞こえてしまうでしょう。モニター用途の場合は、AUX センドパスは通常プリフェーダーになっているため、チャンネルフェーダーの影響を受けないでしょう。より柔軟にお使いいただけるように、FX バスは各チャンネルでプリフェーダーに切り替え可能となっています。さらに、AUX バスをメインセクションでプリ／ポストフェーダーに自由に切り替えることもできます。そのため、最大 6 つのプリフェーダーバス、または 4 つのポストフェーダーと 2 つのプリフェーダーバスがお使いいただけることになります。

ja

5.1.2 チャンネルフェーダー、パンコントローラー、ミュートスイッチなど

PAN

PAN コントローラーで、ステレオミックス内、およびチャンネル信号がルートされるチャンネル信号におけるチャンネル信号のポジションを決定することができます。



MUTE

MUTE スイッチでチャンネルをミュートできます。これを押すと、チャンネル信号がメインミックスおよびサブグループから排除されます。これと同時に、該当チャンネルの FX 、モニターおよび AUX パスもそれぞれミュートされます。チャンネルがミュートされると、MUTE LED が点灯します。

SOLO

ソロ機能を使うと、一つのチャンネルのみをモニターすることができます。チャンネルの SOLO スイッチを押すと、ヘッドフォンで信号をモニターすることができます。同時に、モニターメーター 1/2 がソロ信号に切り替わり、信号レベルを正確にチェックすることができるようになります。モニター信号はこの際チャンネルフェーダーおよびパンコントローラーより前(PFL, モノ)もしくは後(AFL, ステレオ)のどちらかで取り込まれます(PFL/AFL スイッチのポジション次第)。ソロ機能が有効になると該当する LED が点灯します。

CLIP

チャンネルのレベルが高すぎると CLIP LED が点灯します。この場合は、TRIM コントローラーでチャンネルの入力レベルを下げてください。

SIG

チャンネルに -20 dB 以上の信号が流れるとSIG LED が点灯します。LED はフェーダーには影響されません。フェーダーが下げられ、チャンネルがミュート状態にあっても、信号は検出されます。

フェーダー

チャンネルフェーダーで、メインミックスおよびサブグループに送られる信号のレベルを調節します。

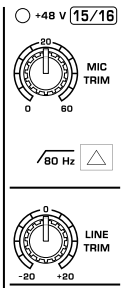
1-2, 3-4, MIX

ルーティングスイッチは信号をサブグループもしくはメインミックス、またはその両方へとルートします。XENYX には 4 つのサブグループがあります。PAN コントローラーで信号をルートさせたいグループを決定することができます(左に廻しきると SUB 1 または 3 、右に廻しきると SUB 2 または 4)。

5.2 ステレオチャンネル

+48 V

ファンタム電源を入れるとこのコントロール LED が点灯します。スイッチは装置の背面部にあります。



MIC TRIM

MIC TRIM コントローラーでマイク入力の増幅レベルを調節できます。増幅は 0 ~ +60 dB 間で行えます。

☞ **音声信号の接続もしくは切断を行う際は、このコントローラーを完全に半時計回りに廻しきってください (レベル 0 状態)。**

80 Hz

80 Hz スイッチを押すとハイパスフィルターが起動し、低周波ノイズ(−3 dB @ 80 Hz, 18 dB/オクターブ)がカットされます。

LINE TRIM

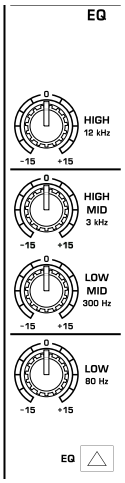
LINE TRIM コントローラーで LINE 入力のレベルを −20 ~ +20 dB 間で調節できます。センターポジションでは、ライン信号はブースともカットもされません。

5.2.1 イコライザーステレオチャンネル

ステレオチャンネルには 4 バンド EQ が備えられています。各周波数バンドとも最大 15 dB までのブーストおよびカットが行え、センターポジションではフラットレスポンスとなります。

HIGH

EQ セクションの HIGH コントローラーで、該当チャンネルの高周波帯域を調節できます。これは 12 kHz 以上の周波数帯域をブースト/カットするシェルビングフィルターとなっています。



HIGH MID

HIGH MID コントローラーで中音域の調節ができます。これは 3 kHz 前後の周波数をブースト/カットするピークフィルターとなっています。

LOW MID

LOW MID コントローラーで中音域の調節ができます。これは 300 Hz 前後の周波数をブースト/カットするピークフィルターとなっています。

LOW

LOW コントローラーで低周波帯域の調節ができます。これは 80 Hz 以上の周波数帯域をブースト/カットするシェルビングフィルターとなっています。

EQ

EQ プッシュボタンを押すとイコライザーが起動します。スイッチのオンオフを繰り返すと、 EQ 処理前後の音色の違いを確認することができます。

5.2.2 ステレオチャンネルの FX/MON/AUX センドパス

ステレオチャンネルの AUX および FX パスは、基本的にモノチャンネルでのそれと同じ働きをします。AUX バスがモノラルであるため、ステレオ信号はこれらのバスにルートされる前にモノ信号へと変換される必要があります。

5.2.3 チャンネルフェーダー、パンコントローラー、ミュートスイッチなど

BAL(ANCE)

BAL(ANCE) コントローラーは、モノチャンネルの PAN コントローラーと同じ働きとなっており、入力信号がステレオメインミックスバス(または 2 つのサブグループ)にルートされる前に入力信号の左右の相対音量を調節します。

MUTE

MUTE スイッチを押すとチャンネル信号がミュートされます。チャンネルがミュートされると MUTE LED が点灯します。

SOLO

SOLO スイッチを押すと、信号をヘッドフォンでモニター可能となり、同時にモニター表示 1/2 でレベルチェックできるようになります。ソロ機能が有効になると、該当する LED が点灯します。

CLIP

チャンネルのレベルが高すぎると CLIP LED が点灯します。この場合は、 TRIM コントローラーでチャンネルの入力レベルを下げてください。

SIG

チャンネルに −20 dB 以上の信号が流れるとSIG LED が点灯します。LED はフェーダーには影響されません。フェーダーが下げられ、チャンネルがミュート状態にあっても、信号は検出されます。

フェーダー

チャンネルフェーダーで、メインミックスおよびサブグループに送られる信号のレベルを調節します。

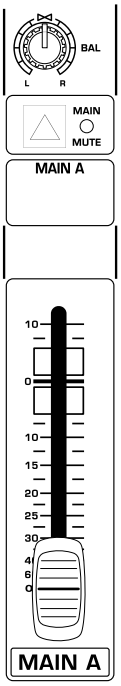
1-2, 3-4, MIX

ルーティングスイッチは信号をサブグループもしくはメインミックス、またはその両方へとルートします。ステレオ信号をサブグループへルートする際にルーティングスイッチを使う場合は、信号が二つのグループへステレオとして送り込まれるように、バランスコントローラーをセンターポジションにするようご注意ください。

5.3 メインセクション

5.3.1 MAIN A セクション

BAL(ANCE)



BAL(ANCE) コントローラーは、信号が MAIN A 出力にルートされる前に出力信号の左右ミックスレベルの調節を行います。これで、ミキサーサム信号の左右音量レベルを必要に応じて個別に設定することができます。

MAIN MUTE

MAIN MUTE スイッチを押すとすべての入力チャンネルがミュートされます。チャンネルがミュートされると MUTE LED が点灯します。これによって、休憩時やセットチェンジ時にマイクがノイズや干渉を拾い、PA システムに流してしまうことを防ぐことができます。場合によってはスピーカーのダイアフラムを破壊してしまうこともあります。このスイッチの特に優れた特徴は、メインミックスフェーダーを調節することなく、CD／テープ入力（参照）からの CD 音源をプレイバックできることです。ミュートされたチャンネルのフェーダーを下げる必要ももちろんありません。

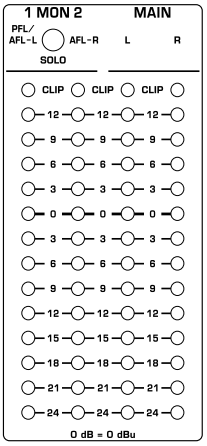
MAIN A

この正確な MAIN A フェーダーを使って、メインミックス信号の出力レベルをコントロールすることができます。

MAIN B

MAIN B セクションの設定によっては、MAIN B 出力のレベルは MAIN A フェーダーに影響されます。

5.4 レベルメーター



4 つの高解像 LED メーターは、モニターバスおよびミキサーサムの出力信号レベルを表示します。ミキサーのソロスイッチをオンにすると、モニター LED メーターが自動的にソロ信号を検出します。マスター信号は常に表示されます。

1 MON 2

モニターメーターは、モニターバス 1 および 2 のレベルを表示します。ソロモード（SOLO LED が点灯）では、PFL 信号（モノ、左メーターのみ）もしくは AFL 信号（ステレオ、左右両メーター）が表示されます。これはソロセクションの PFL および AFL スイッチの状態によって変わります。

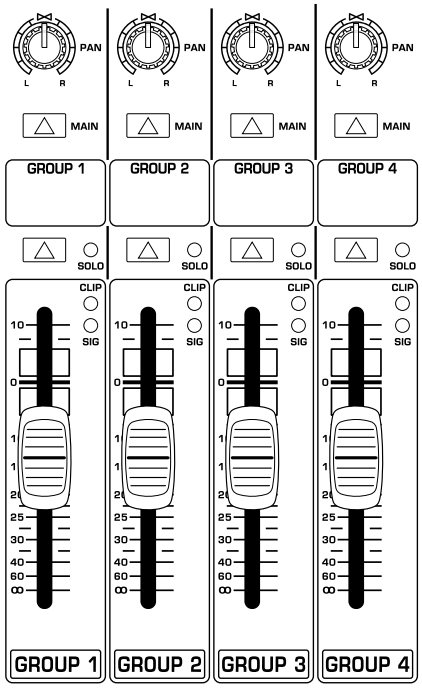
SOLO

ミキサーの SOLO スイッチを押すと、該当する LED が点灯するだけでなく、グローバル SOLO LED も点灯します。これによって、ライブのミックスを行っている最中に、一つの SOLO スイッチが起動していることを確認するためにミキサー全体をチェックする必要がなくなります。同時に、この LED でモニターメーターがソロモードになっていることを確認できます。

MAIN

出力信号レベルは、この精確なレベルメーターに表示されます（MAIN OUT A）。

5.5 サブグループ



XENYX には 4 つのサブグループが備えられているため、複数のチャンネルをモノもしくはステレオミックスでまとめることができます。音量レベルはサブグループフェーダーで調節できます。例えば、すべてのヴォーカルチャンネルもしくはドラム信号でまとめられたサブグループを作成し、この音量をサブグループフェーダーで調節することができます。こうすることで常に全体が把握でき、同時にサブグループインサートを使用して信号にコンプレッサーをかけることが可能となります。

さらにサブグループ出力をマルチトラックレコーダー用のセンドとして使用することもできます。

PAN

PAN コントローラーでステレオイメージ内のポジションを決定することができます。

MAIN

MAIN スイッチはサブグループ信号をメインミックスへとルートします。

PAN コントローラーで、信号のステレオメインミックスにおけるステレオイメージの位置を決定します。左へ廻せば信号は左へ、右へ廻せば信号は右へ、センターポジションでは信号は左右両方から出力されます。例えば、サブグループ 1 と 2 によるステレオサブミックスを作成した場合、グループ 1 を左チャンネルから、グループ 2 を右チャンネルから出力することで、メインミックスにおけるステレオ信号をバランスよく分配することができます。ひとつのサブグループのみでモノラルのサブミックスを作成した場合、信号が片側からのみ出力されることがないよう PAN コントローラーをセンターポジションに戻してください。

SOLO

SOLO スイッチで、サブグループ信号を PFL バス（プリフェーダー）または AFL バス（ソロインプレース）に送り込むことができます。これによってメイン出力またはサブ出力信号に影響を与えることなくサブグループ信号のモニターが可能となります。モニターされる信号は、SOLO/PFL スイッチの位置に応じて、プリ（PFL、モノ）もしくはポストサブグループフェーダー（ソロ、ステレオ）で取り込まれます。SOLO スイッチを押すと SOLO LED が点灯します。

CLIP

サブグループ信号のレベルが高くなりすぎると CLIP LED が点灯します。この場合は、このグループにルートされているチャンネルのフェーダーを下げてください。

SIG

サブグループに -20 dB 以上の信号が流れるとこの SIG LED が点灯します。

信号とクリップ **LED** がフェーダーには影響を受けません。サブグループフェーダーが完全に下に下がっていても、信号は検出されます。

フェーダー

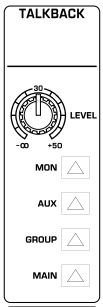
サブグループフェーダーで、サブグループ出力から出力されるサブグループ信号の音量レベルを調節できます。MAIN スイッチが入っている場合は、このスイッチでメインミックス内のサブグループの音量レベルを調節できます。

ja

5.6 マスターセクションのその他の機能

5.6.1 トークバック機能

XENYX のトークバック機能を使えば、ステージ上にいる人達とのコミュニケーションが効率よく行えます。トークバック信号は、異なるバス出力へルートすることが可能です。



MIC

トークバックで使用するためのマイクをここに接続します。

LEVEL

LEVEL コントローラーでトークバック信号の音量レベルを調節します。

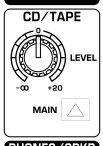
MON, AUX, GROU, MAIN

このプッシュボタン (MON, AUX, GROUP および MAIN) で、トークバック信号をどの出力／バスへルートするかを決定します。ルート先を決定したらトークバックマイクの電源を入れてください。マイクに話している間は、プッシュボタンを押し続けてください。

5.6.2 ソロ

SOLO LEVEL

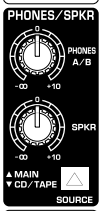
SOLO LEVEL コントローラーでヘッドフォンおよびスピーカー出力へルートされるすべてのソロ信号の音量レベルを調節します。



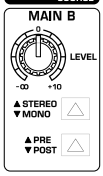
PFL/AFL

PFL/AFL スイッチを押すと、ソロ機能が PFL モノ(プリフェーダー)から AFL ステレオへと切り替わります。スイッチ横の LED に選択内容が表示されます。PFL モードでは、ソロスイッチを入れると信号はプリフェーダーで取り込まれます。AFL モードではポストフェーダーで取り込まれ、ステレオとなります。

TRIM コントローラーで信号レベルを調節する場合は、表示レベルがチャンネルフェーダーに影響を受けないよう PFL モードを選択してください。



5.6.3 CD/TAPE



LEVEL

CD/Tape 入力端子を例えば CD プレイヤーなどに接続した場合、この LEVEL コントローラーでメインミックス内における信号の音量を調節することができます。

MAIN

MAIN スイッチを押すと、CD 信号がメイン出力へルートされます。CD 信号は、MAIN MUTE スイッチを押しても可聴状態となります。そのため、セットチェンジなどの際に CD からの音楽をプレイバックすることができます。

5.6.4 PHONES/SPEAKER セクション

PHONES A/B

PHONES A/B コントローラーでヘッドフォン出力の音量を調節することができます。

☞ **過大な音量は、聴覚障害およびヘッドフォン故障の原因となる恐れがあります。スイッチオン時にミキサーおよびその他の機器からポンという大きなノイズが発生しないよう、パワーアンプ類またはアクティブスピーカーは必ず最後に電源を投入し、使用後は一番最初に電源を切ってください。常に適切な音量での使用を心がけてください**

SPKR

SPKR コントローラーで SPEAKERS 出力へ送り込まれる出力レベルの調節が行えます。

SOURCE

SOURCE ボタンでヘッドフォンおよびスピーカー出力へ送る信号音源の選択ができます(メインもしくは CD/TAPE 信号)。ソロスイッチを押すと、ソロ信号はこの SOURCE ボタンに関係なく両出力端子へと送り込まれます。

MAIN B セクション

MAIN B 出力を介してミキサーサム信号を独立パワーアンプへと送り込むことが可能となります。これによって、サム信号を複数のゾーンおよび各スピーカーグループ(センタークラスター、フロントフィルなど)に送ることができます。ライブレコーディング用にステレオレコーディングシステムを接続することもできるでしょう。

LEVEL

LEVEL コントローラーで MAIN B 出力に送り込まれる信号の音量を調節することができます。

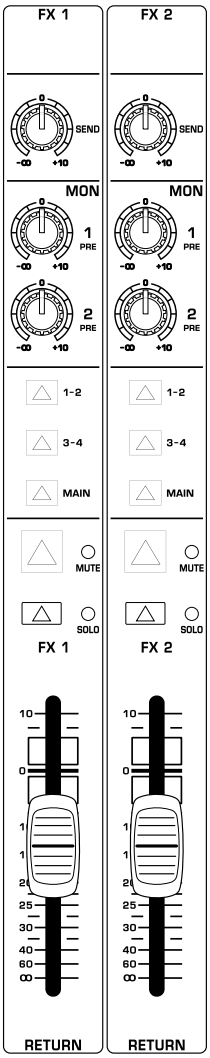
STEREO/MONO

STEREO/MONO スイッチを押すと、MAIN B 信号をモノラルからステレオへと変えることができます。例えば、モノ信号は通常センタークラスタで使用されます。

PRE/POST

PRE/POST スイッチで、MAIN B 信号を MAIN A フェーダーの前段階(プリフェーダー)でとりこむか、後段階(ポストフェーダー)で取り込むかを決定できます。

5.7 FX マスターセクション



このセクションには、これ以上の処理を必要としない信号を取り込むための入力端子がいくつか装備されています。外部エフェクト機器から送り戻される信号を接続するのに最適でしょう。この入力端子が **FX** リターンと呼ばれるのはそのためです。エフェクト信号をモニターおよびサブグループへルートすることが可能です。これによってステレオチャンネルを、フェーダーやルーティング、ソロ、ミュートといった機能を必要とするエフェクト機器用にではなく、キーボードなどのステレオ信号用に使用することができます。

FX SEND

このマスター *FX 1* (または *2*) SEND コントローラーで、各 FX センド端子 (参照) および内蔵エフェクトプロセッサーの入力部に流される全ての FX センド信号の音量を調節できます。入力チャンネルからの全ての FX 1/FX 2 信号のマスター信号をコントロールする際に使用します。どちらの FX SEND コントローラーも使用していない場合は、エフェクトプロセッサーに入力信号は流れません。

MON

MON コントローラーでエフェクト信号をモニターバス 1 および 2 にミックスすることができます。この場合は、まずエフェクト機器に信号が流れている必要があります。つまり、該当するチャンネルストリップ部のマスター FX SEND コントローラーと FX センドコントローラーを廻し、チャンネルフェーダーを上げてください。

1–2, 3–4

ルーティングスイッチを使ってエフェクト信号をメインミックス、もしくはサブグループ 1 – 2 および 3 – 4 に送り込むことができます。例えばコーラス用にサブグループを生成した場合、すべての信号が等しく調節できるよう、ボーカル信号処理用のエフェクトも同じサブグループへとかける必要があります。この場合、コーラスの音量レベルがサブグループフェーダーの方で調節されている限り、FX センドがポストフェーダーとなっていても影響はありません。そうでなければ、エフェクト信号は一切処理されないままメインミックスに取り込まれることでしょう。

MUTE

MUTE スイッチでエフェクトリターンパスをミュートできます。この機能は、曲間に MC を行うヴォーカルマイクからリバーブ効果を取り除く際に便利です。チャンネルがミュートされると該当する MUTE LED が点灯します。

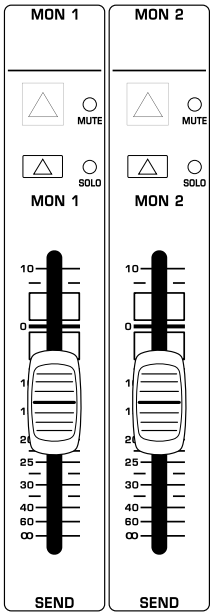
SOLO

SOLO スイッチを押すと、エフェクト信号がヘッドフォン／スピーカーでモニター可能となり、モニターメーター 1/2 でチェック可能となります。ソロ機能が有効になると、該当する LED が点灯します。

FX RETURN

FX リターンフェーダーで、メインミックスおよびサブグループ内における送り戻されたエフェクト信号（リターン信号）の音量レベルを調節できます。

5.8 モニターセンドセクション



モニターセンドセクションでは、すべてのチャンネルからのモニター信号がまとめられ、モニター出力へとルートされます。モニターフェーダーで、モニター出力信号の正確な調節が行えます。

SEND

SEND フェーダーでモニターバスの出力レベルを調節することができます。各フェーダーともに 60 mm の長さで、10 dB のヘッドルームとなっています。

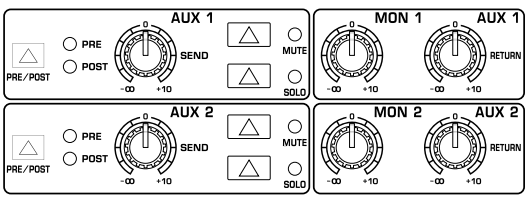
MUTE

モニターセンドにも同様に MUTE スイッチと MUTE LED が備えられています。

SOLO

ステージサウンドの音響調節には、SOLDスイッチを押してモニター信号をヘッドフォンおよびスピーカー出力へと送ってください。スピーカー出力に、ステージ上のモニタースピーカーと同じモニターを接続すれば、ステージサウンドが正確に把握できるでしょう。

5.9 AUX マスターセクション



このセクションは、AUX センドセクション（左側）と AUX リターンセクション（右側）の二つに分かれています。AUX センドパス 1 と 2 は、モニターもしくはエフェクトシグナルパスのどちらで使用するかによってプリフェーダーとポストフェーダーの切り替えが行えます。すべての出力端子同様、両 AUX マスター出力は 10 dB のヘッドルームとなっており、MUTE および SOLO スイッチが備えられています。

AUX リターンセクションでは、CD プレーヤーやエフェクト機器、サブミキサーといった AUX 入力へ接続されている機器の信号が調節でき、これをモニターバスおよびメインミックスへ送り込むことができます。

PRE/POST

AUX バス用のグローバル PRE/POST スイッチです。最大限の柔軟性を実現するため、各 AUX バスはそれぞれプリフェーダーからポストフェーダーへと切り替え可能となっています。

AUX SEND

マスター AUX センドコントローラー 1 と 2 は、各 AUX センド端子の音量レベルを調節します。こうして入力チャンネルの AUX 1 および AUX 2 のサム信号の調節ができます。

MUTE

MUTE スイッチで Aux 出力端子をミュートすることができます。

SOLO

SOLO 機能を使えば、Aux センド信号も独立してモニターすることができます。

MON

AUX RETURN に接続された信号は、MON コントローラーでステージミックスに送り込むことができます。

AUX RETURN

AUX RETURN コントローラーでメインミックス内における Aux Return 信号の音量を調節することができます。

6. 回路の変更

☞ **以下に示す 3 種類の回路変更を行うには、半田付けの技術が必要となります。これまでにこういった半田付けを使った回路変更を行った経験のある方のみを対象としています。経験のない方で回路変更を行いたい方は、資格のある方にお尋ねください。回路変更を行うと、保証条件は適用されませんのでご注意ください。**

☞ **繰り返しになりますが、BEHRINGER 社は、お客様が XENYX を解体した後に生じた故障等については一切責任を負いません。製品の保証をお受けになりたいとお考えの場合は、製品購入から一年間は絶対に分解作業は行わないでください。**

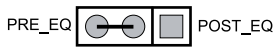
☞ **連結部は基盤の穴に通るようにするのではなく、穴の周辺部にあるメッキ部分に半田ごてをし、穴の上部で橋のように連結するようにしてください。**

6.1 Mon/Aux Sends > Post-EQ

プリフェーダーで結線されているすべてのモニターおよび AUX センドは EQ の手前で取り込まれるようになっています。これをポスト EQ で結線したい場合は、回路を変更する必要があります。変更箇所は、装置背面部にある基盤に印刷されています。

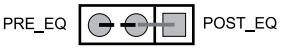
☞ **ミキサーの筐体を開ける前に、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

1) PRE EQ 部分のコンダクタを切除します。



MON/AUX

2) POST EQ 部分を半田付けして結線を変えます。



MON/AUX

3) この回路変更は、その他のチャンネル部分でも自由に行えるようになっています。

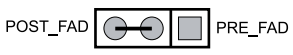
6.2 ダイレクトアウト > プリフェーダー

ダイレクトアウトをポストフェーダーとしてではなく、プリフェーダーとして使用したい場合は、

ダイレクト出力をポストフェーダーとしてではなく、プリフェーダーとして使用したい場合は、回路を変更する必要があります。そのためには、ポストフェーダー部にある結線部分を、プリフェーダー部につけ直す必要があります。変更箇所は、基盤に「DIR-OUT」と印刷されています。

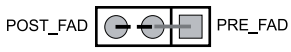
☞ **ミキサーの筐体を開ける前に、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

1) POST FADER 部分のコンダクタを切除します。



DIR/OUT

2) PRE FADER 部分を半田付けして結線を変えます。



DIR/OUT

3) この回路変更は、その他のチャンネル部分でも自由に行えるようになっています。

ja

7. テクニカル・データ

モノラル入力

マイク入力 (XENYX Mic Preamp)

タイプ	XLR接続 , フォンジャック, 別系統入力

Mic E.I.N.[1] (20 Hz – 20 kHz)

@ 0 Ω 入力インピーダンス	−127 dB / 129.7 dB 出力スケール
@ 50 Ω 入力インピーダンス	−126 dB / 128.3 dB 出力スケール
@ 150 Ω 入力インピーダンス	−125 dB / 126.5 dB 出力スケール

周波数帯域

To Direct Out	<10 Hz – 500 kHz (−1 dB)
	<10 Hz – 100 kHz (−3 dB)
To Insert Send	<10 Hz – 90 kHz (−1 dB)
	<10 Hz – 170 kHz (−3 dB)
増幅域	0 dB から +60 dB
最高入力レベル	+24 dBu @ +0 dB ゲイン
インピーダンス	約 2 kΩ バランス
S/N 比	120 dB / 122 dB 出力スケール (0 dBu In @ +22 dB ゲイン)
歪み率 (THD+N)	0.0008 %

ライン入力

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, フォンジャック
インピーダンス	約 20 kΩ バランス, 約 10 kΩ アンバランス
増幅域	−20 dB から +40 dB
最高入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン

チャンネルインサート

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, アンバランス
最高入力レベル	+22 dBu

Channel direct outs

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	75 Ω
最高入力レベル	+22 dBu

フェードアウト減衰[2] (クロストーク減衰)

メインフェーダーが閉じている場合
100 dB

チャンネル音量を切っている場合
90 dB

チャンネルフェーダーが閉じている場合w
85 dB

周波数帯域 (Mic In → Main Out)

<10 Hz – 90 kHz	+0 dB / −1 dB

ステレオ入力

タイプ	2 x 6.3 mm ステレオフォンジャック, バランス
インピーダンス	約 20 kΩ バランス, 10 kΩ アンバランス
増幅域	−20 dB から +20 dB
最高入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン

CD/Tape in

タイプ	RCA
インピーダンス	約 4.7 kΩ
最高入力レベル	+22 dBu

イコライザ

EQ モノラルチャンネル

低域	80 Hz / ±15 dB
Low Mid	100 Hz から 2 kHz / ±15 dB
High Mid	400 Hz から 8 kHz / ±15 dB
高域	12 kHz / ±15 dB
ローカット	80 Hz, 12 dB/oct.

EQ ステレオチャンネル

低域	80 Hz / ±15 dB
Low Mid	300 Hz / ±15 dB
High Mid	3 kHz / ±15 dB
高域	12 kHz / ±15 dB

AUX/MON Send

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 75 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

FX Send

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 75 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

AUX/FX Returns

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 20 kΩ
最高入力レベル	+22 dBu

サブグループ出力

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 75 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

Group inserts

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, アンバランス
最高入力レベル	+22 dBu

メイン出力 A/B

タイプ	XLR接続 , フォンジャック
インピーダンス	約 240 Ω バランス, 120 Ω アンバランス
最大出力レベル	+25 dBu

Main Inserts

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, アンバランス
最高入力レベル	+22 dBu

SPKR

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 75 Ω
最大出力レベル	+22 dBu
Low Pass	可変,30 Hz から 200 Hz, 18 dB/oct.

Phones 出力

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, アンバランス
最大出力レベル	+22 dBu / 600 Ω

CD/Tape Out

タイプ	RCA
インピーダンス	約 1 kΩ
最大出力レベル	+15 dBu

メインミックス・システムデータ[3] (ノイズ)

Main mix @ −∞, チャンネルフェーダー @ −∞
−110 dB / −114 dB 出力スケール

Main mix @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ −∞
−95 dB / −98 dB 出力スケール

Main mix @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ 0 dB
−92 dB / −95 dB 出力スケール

電源供給

消費電力	
XL1600	60 W
XL2400	65 W
XL3200	70 W
ヒューズ (100 – 240 V~, 50/60 Hz)	T 2.0 A H 250 V
電源接続	標準 IEC 電源コネクター

外形寸法および重量

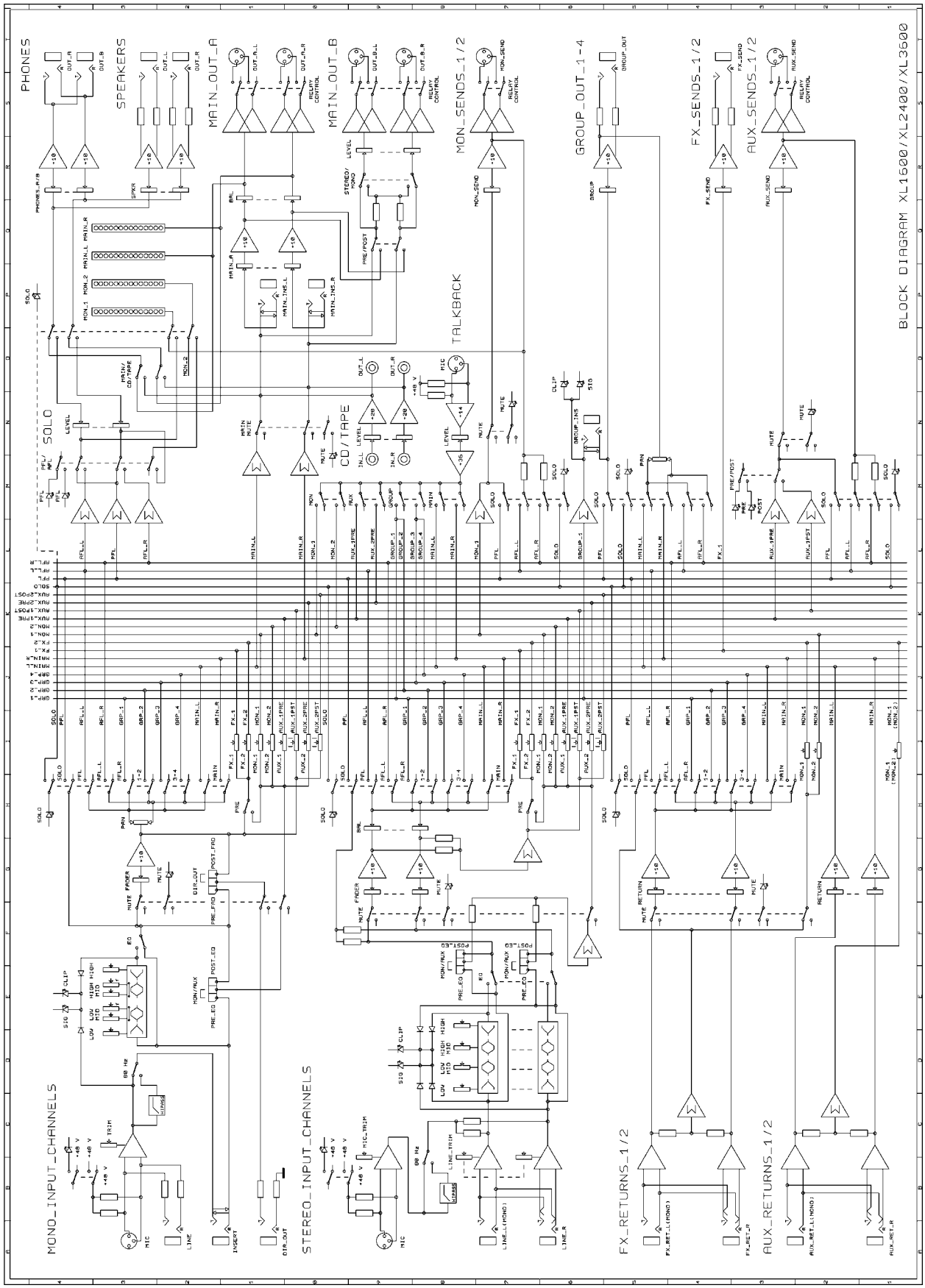
外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行)	
XL1600	180 mm x 495 mm x 540 mm
XL2400	180 mm x 705 mm x 540 mm
XL3200	180 mm x 910 mm x 540 mm
質量 (正味重量)	
XL1600	8.6 kg
XL2400	11.7 kg
XL3200	14.9 kg

BEHRINGER 社は、最高の品質水準を保つ努力を常に行っています。 必要と思われる改良等は、事前の予告なしに行われますので、技術データおよび製品の写真が実物と多少相違する場合がありますが、あらかじめご了承ください。 技術仕様および外観は予告なく変更する場合があります。

1) Equivalent Input Noise

2) 0 dBu あたり 1 kHz rel. 、20 Hz ～ 20 kHz、ライン入力、メイン出力、ゲイン@ ユニティー

3) 20 Hz ～ 20 kHz 、メイン出力によるチャンネル 1～4 ゲイン @ ユニティー、サウンドコントロール ニュートラル、全チャンネル メインミックス設定、チャンネル 1/3 左端、チャンネル 2/4 右端レファレンス = +6 dBu


BLOCK DIAGRAM XL1600/XL2400/XL3500
PHONES
SPEAKERS
MAIN_OUT_A
MAIN_OUT_B
MON_SENDS_1/2
GROUP_OUT_1-4
FX_SENDS_1/2
AUX_SENDS_1/2
TALKBACK
SOLO
CD / TAPE
MONO_INPUT_CHANNELS
STEREO_INPUT_CHANNELS
FX_RETURNS_1/2
AUX_RETURNS_1/2

ja

ja